

(様式1-2)

I 学校の概要

令和8年度学力向上モデル校事業（外国語教育推進モデル校事業） 坂出市立坂出中学校

◆学校の特色

坂出市の外国人住民数は2024年1月時点で、住民基本台帳人口の約2.73%を占めており、身近な生活場面でも外国人と接したり、外国の文化に触れたりする機会が多くなりつつある。市内の小中学校においても年々外国語を母国語とする児童生徒数が増加しており、生徒にとっては、今後様々な言語を通してコミュニケーションをとる機会が増えることが予想される。このような状況を踏まえると、多様な人々と協働しながら主体的に行動を起こし、自分の考えを表明していく力の育成が必要である。

上記のような学校環境を受けて、現職教育の重要な研究の視点として今年度は相手意識に立ったコミュニケーション能力の向上をめざすことで「豊かな表現・発信のできる生徒の育成」を図っていきたい。

II 研究主題等

『主体的・協働的に学び、自他の考えを受容・発信できる生徒の育成』

～ 学びの「楽しさ」の追究を通して ～

◆研究主題設定の理由

本校の課題を表すキーワードとして、「学習意欲の向上」「主体的な行動」「不登校を生まない」「ICTの効果的な活用」等が挙げられる。こうした課題の解決に向けて効果的であると考えるのが学びの「楽しさ」の追究である。本校では、学びの「楽しさ」を「生徒同士が関わり、対話することを通して、生徒の考えが深まり、広がること」と定義し、「楽しい・面白い授業」とはどのような授業なのかを全教職員で考え、意見を出し合う中で研究を深めている。

本年度は特に英語科でのAIを活用した英語学習や留学生との交流を通して、主体的に相手にかかわり、自分の思いや考えを発信しようとする態度の育成をめざしていく。また、特別活動におけるコミュニケーション活動の機会を意図的に設定し、より実践的で日常生活に結びつくコミュニケーション活動の充実を図っていきたい。

◆研究内容及び方法

- ① 「授業中、生徒全員が必ず一度は発言する」ことを目標とした授業構築の継続
- ② 生徒一人ひとりの発言をつなぎ、広げ、深めていく授業展開の工夫
- ③ 相手の文化や環境に配慮した、より良いコミュニケーションの創造
- ④ 上記のことを踏まえ、良好な交流に向けた最低限の外国語活用スキルの在り方
- ⑤ 交流を通して感じる満足感・充実感・達成感は「何をもって得られるのか」を分析
- ⑥ 先進地域や先進校の取組を参考にしながら、本校独自の視点をもった研究推進 等

III 成果の評価計画（検証方法）

- アンケート項目を検討し、事前・事後のアンケート結果から変容の見取り
- 必要に応じて授業公開等を行い、参観者からの意見や感想等の集約
- 研究成果が自らの授業改善に役立ったか、本校教員へのアンケート等による見取り
- 交流に向けた最低限の外国語活用スキルを提言し、他校教員の意見や感想等の集約

IV 研究成果の普及方法

- 研究授業や留学生との交流場面の授業を公開する。
- 学校だよりや学校ホームページを通して、研究内容や研究授業の様子などを公開する。
- 「香川の教育づくり発表会」での発表 等